

\*\*\*\*\*

# メルマガ

NPO 法人市民福祉団体全国協議会・復興支援事務所

NO.5 (2012年7月1日発信)

# しっかい!

歩もう	つながろう
支えよう	広げよう
学ぼう	増やそう

\*\*\*\*\*

**★被災地関連情報★**      引き続き募集中です!  
 問い合わせは連絡先へ直接行ってください。

【山元町仮設の女性グループ支援】 中古ミシン提供募集!  
 連絡先[ささえ愛山元・中村怜子 080-3031-5722]

【おもかげ雛(前号記事参照)】 希望の方は連絡下さい!  
 連絡先[安部白道 080-1885-8932]

## 【NPO交際費】

(安部 白道)

★宮城県「新しい公共」事業は、大幅に遅れた県からの承認通知を受けて6月26日初の協議会が開催されようやく本格スタートとなった。これらの事業は地域に密着した活動家が軸となることで一体感も生まれる。骨組みづくりのお手伝いをしてきた安部もこれを機に、藤田佐和子さんに代表をバトンタッチすることにした。

★これで、市民協会員が被災3県で取り組む本事業は、安部の知りうる限りではすでに活動を開始している、宮古市・佐々木りほ子さん、石巻市・伊藤寿郎さん、南相馬市・澁谷恭子さんとあわせ4つとなった。

★この状況を踏まえ、これからの市民協の復興支援について提案をしてみたい。市民協のHPでは、会員への支援金呼びかけが続いているものの、震災後1年以上を経過した昨今では寄付金の額は必ずしも事務局の意向を反映したものとは言い難い状況だ。しかし、会員が資金不足に陥っているわけでも、支援の志を失ったわけでもないと考えます。支援金が集まりにくいのは、「支援したい活動」が見えないからではないだろうか？

★安部の提案というのは以下のようなものだ。

- ①上述の4つの事業への支援内容をHP上に詳細開示し、各代表者がその活動をより効果的に進めるための支援をアピールする
- ②市民協会員は、それらの内容を比較して「自分が共感する活動」に用途指定して支援金を送る
- ③事務局は、その意思を尊重して指定された事業へ支援金を送る

支援活動の「見える化」とマッチングギフトである。

★中にはこんな意見もあるかもしれない。「補助金事業で十分手当されている事業に、貴重な会員の支援金をさらに送るのはいかがなものか？」

★NPO 新会計基準を読んでいて気づいたこと、民間の費目にあって、NPO に無いもの・・・それは交際費だ。ただそれはよく新聞ネタにされるようないかがわしい性質のものでは決していない。適正な交際費は「事業の潤滑油」なのだ。しかし補助金や助成金ではそうした支出は御法度。その意味も分かる。だが、そうした費目を認めないことが、NPO がヨコのネットワークづくりを苦手とする要因になっているのではないか？

★事業を指定して行うマッチングギフトによる支援金こそ、その事業関係者にとっての「交際費」として活用してほしい。そうすることによって補助金事業はより効果が期待できるし、NPO やボランティア関係者との絆も深まるのではないか。

## 【仙台事務局通信】

ちょっと時間が過ぎますが、5月28日に「仙台市政だより7月号」に掲載される記事の取材を受けました。タイトルは「震災を乗り越え、輝く仙台の市民力」。3団体の中の1団体として、下記のように掲載される予定で、このMMが皆さんの元へ届く頃には、仙台市内の各家庭に戸ずつ配布され、読まれていることでしょう。

昨年4月に活動を始め、6月頃から市内のプレハブ仮設住宅を訪問する中で、住民同士が交流する機会がないことに着目した市民福祉団体全国協議会。他の市民団体と協力して、仮設住宅の敷地内にテーブルとパラソルを設置し、喫茶活動を始めました。

屋外にあることで住民が気軽に立ち寄り、飲み物を飲みながら歓談できる「パラソル喫茶」。現在、市内で月10回程度実施しています。

事務所の藤田佐和子さんは「今後は、住民自身が切り盛りするカフェへの移行を計画中です。住民同士の絆がより深まり、自立に向けた一歩を踏み出すきっかけになればうれしいです」と語ります。



▲復興支援事務所の皆さん。左から3人目が藤田さん

◆NPO法人市民福祉団体全国協議会 復興支援事務所

被災者同士が気軽に交流できる場所をつくりたい

## 【SHOP 事業(「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」)について】

(藤田 佐和子)

第1回ドリーム会議(協議会)以降、この1ヶ月間はパラソル喫茶に入っている仮設8ヶ所と、点在しているみなし仮設のグループ1団体を訪問し、モデル事業についての説明を行ってきました。関心を示した仮設には少なくとも2回、多い仮設には5回も説明のために足を運びました。

そこで気づいたのは、集会所のスケジュールがほどよく埋まっていて、適当にイベントがある仮設は、ボランティアに来てもらい何かしてもらうことにすっかり慣れてしまい、それに満足して新しいことにチャレンジする気持ちがなくなっているということだ

す。ほとんどの自治会長は男性で、会長に話をすると皆さん関心を持ってくださり乗り気ですが、いざ実践部隊である女性陣に話をすると、今でも十分に忙しいのでこれ以上は無理だとか、事業となると重荷に感じると言われ、断られました。

一方、今回モデル事業にチャレンジする仮設は、どちらかというイベントが少なく、また現状の足りない部分を何とかしたいと思っているところに私たちの話を聞き、ほとんどすぐに「やりたい！」と手を挙げました。

1年が経過し、自立に向けて歩み始めなければならない時、各仮設の環境や事情により一概には言えませんが、善意のボランティア活動にも功罪があるような気がしています…。

■6月26日、第2回ドリーム会議で仙台市内3ヶ所、東松島市1ヶ所の仮設でSHOP事業を行うことが承認されました。決して意図したわけではないのですが、4仮設ともにそれぞれ特色があり、結果がどうあれ、面白い取り組みになりそうです。以下に、4仮設を簡単に紹介します。

#### ★仙台市若林区日辺グラウンド①②（197戸）

グループ名は「ニッペ de カフェテラス」

世帯数は多いが、津波の被害に遭った町内会がそのまま入居しているので、ほとんど顔見知り。自治会長の奥さんがリーダーとなって4人でグループをつくり、今後、少しずつ協力者を増やしていきたいと積極的です。その4人の中の2人が高齢の親を介護しており、そこから見えてきた閉じこもりがちの人への声かけや、みんなで一緒に食事をする居場所づくり、子どものたまり場をつくっていききたいと張り切っています。

#### ★仙台市宮城野区扇町1丁目公園（131戸）

グループ名は「おにぎり会」

仙台市内の仮設で唯一、自治会組織が出来なかったところ。津波の被害や建物の損壊で入居しているので地域も年齢も意識もバラバラと言えます。日中は高齢者や身体の弱い人、働いていない女性たちが集会所を利用しており、その人たちで仲良くなっていますが、リーダー不足であり、活動できる人が限られているという不安があります。しかし、このまま何もしないよりは、コミュニティ・カフェを通して集会所に人が集まるきっかけづくりをしたいと、チャレンジしてきました。

#### ★みなし仮設（借上げ住宅：会員は約60名）

グループ名は「若松会」（若林区）

集合仮設と違って、みなし仮設の人達には支援物資も届かず、集まる場所もありません。そこで、現状をみかねた元気な女性達が会を発足し、手づくり品の販売やイベント等を企画して活動しています。しかし、1年が経過し息切れ状態…。みんなが集える拠点を確保し、軽食喫茶や惣菜の販売、手作り雑貨の販売等を手がけ、自立を目指したいと意欲的です。

★東松島市グリーントウン矢本②③（300戸）

グループ名は「あおぞらコミュニティ心の復興支援グループ」

東松島市内で最大の仮設住宅団地。昨年10月に自治会が発足するも、働く世代や子育て世代が多くコミュニティ形成が遅れているようです。しかも、避難所生活から続く物資支援や炊き出し等のハード支援が恒常的に続いたことで、被災者意識が払拭できず、自主・自発的な意識や動きが生まれにくい現状のようです。そこで、市民がつくる「元気な東松島市」～無形の復興、取り戻そう誇りを～目標に活動していきたいと、まちづくりに夢をふくらませています。

【6月パノール喫茶実施報告】

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
すずめの宿・七福中央公園仮設&2号公園仮設		福島・佐原	すみちゃんの家	さくら会 JR南小泉		ささえ愛山元・栗田(東)  バスツアー
10	11	12	13	14	15	16
		福島・しのぶ台	NALC・七ヶ浜第一スポーツ広場仮設	NALC・荒井小用地仮設		
バスツアー						
17	18	19	20	21	22	23
	仙台事務局&仙台傾聴の会 扇町1丁目公園	福島・佐原	すみちゃんの家	さくら会 御町5丁目	仙台事務所&男の台所 扇町1丁目公園仮設	ささえ愛山元・栗田(北)
				すみとらる 七福中央公園仮設		
24	25	26	27	28	29	30
	すみとらる 扇町4丁目仮設	福島・しのぶ台	NALC・仙台港背後地6号公園 中野仮設	NALC・日辺グランド仮設		